

TC ゆった〜り山行実施記録表 v.1 2013年5月31日 報告者: 三村義昭(1/2)

山行名	那須八幡ツツヅ・会津西山温泉・博士山(1482m)登山 [栃木県・福島県]
実施日	平成25年05月25日(土)~26日(日) 1泊2日 マイクロバス利用
天候/参加人員	天候: 5/25: 曇後晴、5/26: 晴、 レベル: ★★ 参加者: 申込14名/実施14名(男3名/女11名; うちゲスト参加1名)
パーティスタッフ	CL/計画/:、SL:、会計:、救護:、ドライバ:、写真: スタッフ名削除
参加メンバ	A班: (班長)、 B班: (班長)、 氏名削除
費用 一人当たり; 21,800円 TTCカンパ金: 2,452円	約21,800円 (交通費¥10,197+宿泊費¥10,650+その他¥778+カンパ金¥175) 費用内訳 <u>交通費</u> マイクロバスレンタル料金 (@28,455x2日) ¥56,910、燃料代 (@130x(350+540+待機50km)/5) ¥22,100、ドライバ謝礼 (@18,000x2日+距離加算 ¥1000+宿泊加算 ¥2000) ¥39,000、高速料金 [往路: 東名 ¥1450+首都高 ¥900+東北道那須まで ETC 通勤割 ¥3,200=計 ¥5,500、帰路: 磐越道会津坂下から浦和料金所まで ETC 通勤割 ¥6,200+首都高速 ¥900+東名厚木まで ¥1,450= ¥8,550] ¥14,100、ドライバ宿泊費 ¥10,650/ <u>交通費計</u> : ¥142,760/14=¥10,197、 <u>宿泊費</u> : @10,650、 <u>その他雑費</u> : 昼食用オキギリ (@500x14) ¥7,000、乾杯用ビール (@578x5本) ¥2,888、通信費 ¥1,000/ <u>雑費計</u> ¥10,888/14=¥778/ 一人当たり費用合計 (@10,197+宿泊費 @10,650+その他 @778) @21,625 集金 (@21,800x14) ¥305,200-費用合計 (@21,625x14) ¥302,750=残金(TTCカンパ金) ¥2,452

	5/25(那須八幡ツツヅ・平成の森トレッキング)			5/26(博士山登山)		
	歩行時間	休憩時間	行動時間	歩行時間	休憩時間	行動時間
ガイドブック	—	—	—	4:30	—	—
計画	2:00	—	—	5:20	1:55	7:15
実行	1:48	0:47	2:35	5:17	1:33	6:50

実行コースタイム記録

◆5/25(土) 天候: 曇後晴(那須八幡ツツヅ散策・平成の森散策、歩数: 14,000歩)
(荻野新宿・及川・林経由) 東名道 首都高 東北道
鷲尾==本厚木IC==前==厚木IC==用賀PA==浦和料金所==羽生PA==黒磯PA ==那須IC==ツツヅ吊橋入口P
6:00 6:18/6:20 6:27 6:59/8:08 7:58 8:24/8:38 9:45/9:58 10:01 10:35
0:45 (昼食) 0:30 マイクロバス移動 0:33 那須甲子道路/R289/県 346/R400/県 32
--八幡ツツヅ中央展望台--八幡崎大駐車場==平成の森公園入口--駒止の滝P==道の駅下郷==西山温泉滝の湯(泊)
11:20/11:50 12:20/12:27 12:37 13:10/13:22 14:10/14:28 15:54 到着

◆5/26(日) 天候: 終日晴(博士山登山: 累積標高差(登り/下り): 約800m/歩行距離: 約7km、歩数: 約18,000歩)
朝食 6:00~ 林道 1:13 0:15 0:27 0:41 0:22 (昼食) 0:18 0:28
滝の湯旅館==大成沢==道海泣きコース登山口P---(1055m)---シャクナゲ洞門---尾根分岐点---社峰---博士山頂上---社峰---
6:40 6:59 7:10/7:25 8:38/8:43 8:58 9:25/9:37 10:18/10:25 10:47/11:28 11:46
0:16 0:29 (大谷滝尾根) 0:08 0:40 (温泉入浴) pick-up (買い物) 県 32/R252/ 磐越道
分岐---近洞寺跡---尾根分岐点---(940m)---近洞寺コース下山口==滝の湯旅館==柳津道の駅=会津坂下IC==磐梯山PA
12:14/12:22 12:38 13:07 13:15/13:20 14:00/14:07 14:30/15:18 15:40/15:58 16:10 16:30/16:45
東北道(ETC 通勤割) (夕食) 首都高速 東名道
=郡山JCT=(西那須野塩原)=上河内SA==浦和料金所==川口PA==東京料金所==厚木IC==本厚木駅==鷲尾
17:07 17:59 18:18/18:30 19:40 19:46/20:16 21:04 21:26 21:35 21:50頃

コースの概要、特記事項、反省事項等

奥会津に一等三角点を持ち、ブナの原生林が特に美しい「博士山」という不思議な名前の山があり、前々から一度登ってみたいと思っていた。いろいろ調べて見ると、現在会津美里町にある会津総鎮守社「伊佐須美神社」は、その縁起を記した古文書によれば、紀元前88年(崇神天皇10年)に、一昨年秋に長年の夢をかなくてやっと頂上を踏んだ御神楽岳頂上に創建されたという(祭祀は伊弉諾、伊弉美の2神)。その後、この博士山に社殿が移され、さらに明神ヶ岳を経たのち、現在の地に遷座されたという古い歴史のある山であった。

この山を登るための登山基地として古事記時代に開湯され、現在も「神の隠れ湯」の温泉信仰を残す秘湯の里「西山温泉」に定め、5軒ある旅館の内、地元パンフレットやWeb情報で評判の良い「滝の湯旅館」と交渉し、10名以上であれば貸切ということで3/上に宿泊先を先行予約した。また、前日は那須八幡ツツヅと中の大倉尾根に咲く4万本のゴヨウツツヅをゴンドラを使って見物に行くプランを組合せ、1泊2日のゆった〜り山行として提案し、3月例会仮募集/4月例会本募集にて、参加者を募ったところ、14名の応募者があったので、マイクロバスで行くこ

とにして、各方面に手配・直前地元情報収集等を行って、万全の準備を整えた。関東地方は、2-3月のホトチカ陽気で桜の花が、平年より10日も早く咲いたのに、那須をはじめとする東北の春の訪れは遅く、例年なら満開になっているはずの八幡ツツジは5/20にやっと開花するなど、ツツジの開花遅れに大いに忤々させられた。

◆5/25(土)：東名・首都高・東北道とも快調に走り、3回のトイパムをとりながら、那須ICを抜け、那須湯本手前で少し渋滞に遭ったが、予定時刻に八幡南ツツジの入口「ツツジ吊橋駐車場」に到着した。早速吊橋を渡り、八幡南のツツジの群生地に向かった。生憎が入りっぽい天候で、那須連山の眺望はなかったが、谷の斜面にゴヨウツツジが数本咲いているのが見えた。木道を進むと真っ赤な花を一斉に開き始めたヤマツツジの群落を見て、歓声が上がった。まだ蕾も多く、全体では6,7分咲きというところだが、咲き始めたばかりで、どれも色鮮やか美しい。

八幡南地区を抜け、雑木林の斜面を10分ほどで登り切り、ツツジ群落が広がる八幡ツツジの遊歩道を辿り、中央展望台に向かった。上の道路に車を駐車して降りてくる大勢の観光客で、展望デッキは人であふれていた。展望デッキのすぐ下の休憩卓&ベンチに陣取り、にぎやかなランチパーティとなった。食後、一端北の展望台を經由して、ツツジの群落の間を抜けて、上の道路からマイクパスの待つ八幡崎無料駐車場まで散策した。見頃を迎えた真っ赤なヤマツツジに交じり、ベニササゲウツギや白色のドウダンツツジも咲き、レンゲツツジも一部咲き始めていた。ツツジの名所として名高い場所であるが、ほとんどのメンバーが初めてで、見事なツツジに感激して頂けたのは何よりだった。

この後、予定では那須マツジコーススキー場上部の中の大倉尾根に咲く4万本のゴヨウツツジを愛でに行くはずであったが、前日の問い合わせでは、今年はまだこの群生地のゴヨウツツジは開花していないとのこと。往復1500円のゴンドラ代がもったいないので、行き先を平成の森に変え、駒止の滝まで新緑の森を散策することに。ゴールの駒止の滝展望台から、2段/落差約90mの駒止の滝を遠くに眺め、足下の斜面にゴヨウツツジが見事に咲いているのを確かめた。この頃になって、ようやく雲が晴れ、茶臼岳や朝日岳の全容がはっきりと見渡せるようになった。

再びマイクパスに乗りし、那須甲子道路から甲子トンネルを抜けて、会津地方へ。下郷の道の駅で一休みした後、山深い県道を抜け、大成沢で明日迎える「林道博士山線」の入口を確認してから、西山温泉「滝の湯旅館」に4:00pm前に到着。早速源泉かけ流しの温泉を楽しむ。露天風呂と男湯の源泉が「荒湯」、女湯の源泉が川向の源泉から引き湯している「滝の湯」。どちらも、イオン濃度2000ppm超のナトリウム塩化物泉で、荒湯の方は微かに硫黄の匂い。部屋は新館の6室に2~3人に分れ、夕食は、山菜中心で、50畳の大広間で頂く。宿泊客はTTCのみ。

◆5/26(日)：特別にお願いして、通常より1時間早い6:00AMからの朝食を摂り、宿で作ってもらったおにぎりを持って、博士山登山に出発。とはいっても、3日前に38.6°Cの熱を出したMSさんと数日前に家の中で脚の靭帯を痛めてしまったゲスト参加のMMさんのお二人は、大事をとって下界で待機することになったため、登山したのは12名である。大成沢の集落から左折して、舗装はしてあるが細い林道博士山線に車を乗り入れて走ること約10分で、立派な車道に出て、それを少し行ったところに、広大な博士山登山者用の駐車場。狭い谷間の林道のどん詰まりを想像していたが、実に広大な山裾にビックリした。道海泣き尾根登山口前で、ストレッチ体操を済ませ、7:25AM登山開始。ウイブ組の2人は、この後、マイクパスで柳津の街まで送ってもらって会津きつての名刹である円蔵寺参拝等の柳津観光。登山組が下山して帰路につく際に、柳井でpick-upすることにした。

登山道はブナの新緑が目染める樹林帯に入り、ほどなく本格的な急登となり、やがて、ドロップやら、アルミのバコも現れるが、道海とうい坊さんが泣き泣き登った急峻な尾根という名前の由来ほどの事はなく、ブナの原生林の森林浴を楽しみながらの楽しい登り。登山道には、材木ノキやタムシバの白花に、紫の色艶やかなトウゴクミツバツツジ、そして足元には、ヒノキの可憐なショウジョウバカマが出迎えてくれた。やがて、シャクナゲ洞門まで登ると、頭上にアスマンツツジの花が我々を出迎えてくれた。シャクナゲの花は、下山ルート近洞寺跡の尾根筋に多く見られた。

シャクナゲ洞門から先の社峰、下山ルートの近洞寺跡付近までの尾根筋に、アサノの大木が沢山目についた。大きいものでは、幹回りが10m位あり、樹齢は優に500年は越えているのではないと思われる。檜や杉の大木はあちこちの山でよく見かけるが、こんなアサノの大木を見たのは初めてかもしれない。アサノは井上靖の小説で、ヒノキになろうと努力する少しかわいそうな木として描かれているが、殺菌作用や防湿作用を持つヒノキオールが檜より数倍多量で、最高級のまな板や桶として珍重されている(別名青森ヒバ)。見晴らしが利くようになった主稜線を博士山頂上に向かって進むと、左側の北斜面に残雪が残り、タムシバの花、そして足下にまさに純白の花を開き始めばかりのツバキや同じく咲き始めたばかりのウイブカミが群生し、ショウジョウバカマも負けじと存在を主張し、所々にアスマンツツジがひっそりと咲き、ブナの新緑と初夏の花が美しさを競い合っていた。かつて、伊佐須美神社が鎮座していた社峰まで登ると、頂上左側の北斜面と右に張り出した尾根にたっぷり残雪を残した博士山の本峰がかっこよく迫ってくる。そんな頂上へも一登りの距離。頂上に登り着くと誰もいない。ここまで登ってくるまでに3パーティ/6人ほどとすれ違ったが、誰もいないとは予想外。結局旅館特製の大きなおにぎりを食べながら頂上に留まっていた約40分間は完全にTTCの貸切だった。頂上の北側と東側の立木が切り払われ、本来なら見えるはずの飯豊山、磐梯山、安達太良山等の山並みは、天候は良いものの気温が高くて遠方が霞み、いずれの山も確認できなかったのは残念だった。下山コースの近洞寺尾根はもう少しなだらかなと勝手に想像していたが、登りコースに負けず劣らず急坂の連続。シアメンバ中心の12名全員、弱音を吐く人もなく元気に下山!

滝の湯旅館に立ち寄って、温泉で汗を流し、柳津で2人をpick-upし、会津坂下から高速道で帰路についた。